

親切運動の取組について

学校名 氷見市立海峰小学校
児童数 56名

1 親切運動の取組の紹介

○ 小中連携挨拶運動

1学期と2学期に1度ずつ北部中学校の生徒（本校の卒業生）が来校し、6年生と一緒に挨拶運動を行っている。日常的に挨拶の励行を呼びかけているが、この取組の日はずっとより大きな声で挨拶をする児童が増え、朝から活気があふれる。また、活動の始めと終わりに中学生と声をかけ合うことで、小中の連携がより深まっていることを実感している。



○ 思いやりいっぱい「ほかほかの木」

生活委員会の児童が中心となり、心が温くなるほかほか言葉を使うことの大切さを伝える集会を行った。その後、玄関に「ほかほかの木」を置き、友達に言われてうれしかった言葉や、してもらってうれしかった行動等を葉っぱに書いて貼っていった。葉っぱがどんどん増えていき、玄関を通る際に立ち止まって葉っぱを読む児童の姿も見られた。自分の名前が書かれているのを見つけて喜ぶ児童もあり、この取組をきっかけに進んでほかほか言葉をつかおうとする児童が増えた。



○ 花鉢プレゼント

毎年、地区の民生委員の方々にご協力いただき、校区に住む一人暮らしの高齢者にベゴニアの鉢を届ける活動を行っている。4月に一人二鉢のベゴニアを植え、7月の花鉢プレゼントに向けて除草したり、水をあげたりして大切に育てている。プレゼントをする前には鉢をきれいに拭き、メッセージカードを添えて準備をする。一生懸命育てた花鉢を直接プレゼントし、喜んでいただくことで児童はとも満足げであった。



○ 保育園訪問

6年生が総合的な学習の時間に隣接する保育園を訪問し、園児との交流活動を行った。コロナ禍のため、4年ぶりの活動となったが、6年生は園児に喜んでもらおうとゲームの準備や器楽演奏の練習に一生懸命取り組んでいた。園児にも分かりやすい話し方を工夫したり、園児が喜んでくれそうなプレゼントを手作りしたり、相手の立場に立って活動する様子が多くみられた。



2 親切運動に取り組んで

<取組の成果>

挨拶やほかほか言葉はよりよい人間関係を築いていく上で大切なものであり、これらの取組を定期的に行うことで思いやりの意識が高まってきたと感じている。また、花鉢プレゼントや保育園訪問では、「相手に喜んでもらいたい。そのためにはどうすればよいのだろうか」という相手意識を育むことができた。活動を通してお年寄りの方や保育園児の喜ぶ顔を見て、自分たちの活動の意義を感じ、自己肯定感を高めている児童の様子もみられた。

<課題と今後に向けて>

コロナ禍による制限がなくなりつつあるので、活動の幅をさらに地域に広げていきたい。また、思いやりいっぱいの学校を目指して児童が主体となる活動も増やしていきたい。